

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	こどもひろばポーポーの木なかの			
○保護者評価実施期間	令和7年 11月4日		～	令和7年 11月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26名	(回答者数)	9名
○従業者評価実施期間	令和7年 11月4日		～	令和7年 11月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	10名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 12月8日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害が軽度の利用者が多いため、集中して話が聞ける。 いろんな年齢の子がいるのでその中で学べる事も多々あり自立に向けての取り組みができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 集中して話が聞けることで、中高生には性の話や高校卒業後の自立に向けて具体的な話も行っている。 高学年の利用者と低学年の利用者を活動などで一緒に組み合わせることで、相手を思いやり優しく接することにも繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 土曜日や祝日の利用者が決まっているため、社会科見学などの外出支援をしっかりと盛り込み子供たちが充実できる活動を行っていくよう努める。
2	<ul style="list-style-type: none"> クッキングや他の活動においても、一人一人がしっかりと関わることができるよう、役割を決め行っている。 自身の苦手な活動においても、最初の五分だけでも参加するようにルールを決めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当の役割を決めることで責任感が生まれ、最後まで行い褒めてもらえることで自己肯定感を養うことに繋がっている。 苦手な活動は嫌煙しがちだが、五分と決めることでほとんどの子が参加できている。時間を徐々に伸ばしていくことで子供たちの成長に繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 成功体験を積みながら自信を付ける。取り組み内容や意味を理解して行えるようになり、自発的に取り組めるように仲介する。 一人一人の好き、嫌い、得意、不得意等、細かい部分にまで目を向けることで常に最適な支援ができるよう意識して取り組む。
3	<ul style="list-style-type: none"> 送迎時や電話などにより、保護者の不安や相談などにも積極的にしている。 職員の子供に発達障害があるため、自身の経験を生かして子供たちの将来への不安を少しでも軽くできるよう努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 送迎の順番などを工夫したくさんの保護者と会話の機会を設け不安や相談を受けています。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後は保護者会などの開催も検討し、保護者同士で情報交換の場を提供できるように検討していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 職員の年齢層が幅広いため、支援の考え方に相違が生まれやすい。特に年齢層の高い職員では、支援が過剰なお世話につながる事が多い、事業所として目指す自立支援とのバランスが取りにくい 	<ul style="list-style-type: none"> 職員の年齢層の幅が広く、これまで経験してきた働きかた・価値観・支援観が大きく異なるため、支援の基準に差が生まれている。長年児童支援に関わってきた職員ほどお世話的支援が強く出やすく事業所が目指す自立支援とのギャップが生じやすい。支援における共通理解を深めるための時間や研修の場が十分に確保できていないことが足並みが揃いにくい要因となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 年齢や経験による考え方の違いを尊重しつつ、支援の目的(子供の成長・自立)を再確認する場を作る。「お世話になりすぎない支援」「見守る支援」を事業所内で再確認し、必要以上の介入を見直す。
2	<ul style="list-style-type: none"> パートさんの出勤時間が個々異なるため、支援内容や当日の子供の様子の共有が職員間で均一になりにくく、支援のずれにつながる場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> パート職員の出勤時間がそれぞれ異なるため、全員が一度に集まり情報共有する時間が取りにくい。報告・連絡・相談の仕組みが職員の勤務形態にフィットしておらず個人間の伝達に依存しやすい環境となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 出勤時間が異なる職員間でも情報が共有できるようノートやLINEのツールなどをフル活用し、情報の可視化を徹底する。週に一回など短時間でも職員が参加できるミニミーティングの導入を検討する。
3	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事に参加する機会が少なく、地域とのつながりが弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の支援や運営業務が中心となり、地域との接点づくりに時間・役割を割きにくい運営体制となっている。地域の行事情報や連携先の把握が十分ではなく、事業所として地域活動に参加する為の下準備が進みづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事や関係機関との接点づくりを計画的に行う。連携先の情報を職員全体で共有し、無理のない範囲で地域とのつながりを広げていく。